

<総括>

出題数	現代文 1 題・古文 1 題・漢文 1 題 (経営学部は現代文1題・古文1題) (海洋政策科学部文系科目重視型は現代文1題)	試験時間 100分 (経営学部は80分) (海洋政策科学部文系科目重視型は60分)
-----	--	---

本文は、市場における等価交換というモデルが、近代における能力主義と結びつきつつ、現代社会において絶対化されていることに関わるさまざまな問題を論じた文章。分量は昨年よりやや増加して、5,000字程度。

<本文分析>

大問番号	一
出典 (作者)	「交換の論理と「能力」」(松嶋健)
頻出度合 ・的中等	著者の文章は、2021年に東京大学で出題された。
分量 前年比較	分量(減少・やや減少・変化なし・ <b>やや増加</b> ・増加)
難易 前年比較	難易(易化・やや易化・ <b>変化なし</b> ・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
一	評論	問一	記述式	標準	傍線部の内容を80字以内で説明する問題。 「できる」ことと「能力」の違いを第三段落までの内容から抽出する。
		問二	記述式	標準	傍線部の内容を80字以内で説明する問題。 「能力」にまつわるこうした言説」と、「現実の不平等を正当化」という二点を的確に説明する。
		問三	記述式	標準	傍線部の内容を80字以内で説明する問題。 「贈与交換」における「経済的かつ道徳的な均衡感覚」がどのようなものか、適切に説明する。
		問四	記述式	やや難	本文全体の論旨を踏まえたうえで、傍線部の内容を160字以内で説明する問題。 「市場のモデル」が、いかにして「優雅な神話」となり、「現実」そのものを構成する」と言えるのか、本文全体の論旨を踏まえて的確に説明する。
		問五	記述式	標準	漢字問題。「系譜」「劣」「保証」「完遂」「貨幣」の5問。 ※問一～問三の80字、問四の160字は昨年と同じ。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

- ・意味段落に関わる設問を三つ出題した上で、最後に本文全体に関わる要旨説明型の設問を出題するという構成は、東京大学の□と同じ。
- ・長めの評論文を中心としてさまざまなジャンルの文章に接し、基本的な読解力を高めていくこと。
- ・文章の読解においては、まず、全体の趣旨を大きく把握することが肝要である。そのうえで、部分の内容を的確に読み取る力をつけていこう。
- ・また、答案作成においては、理解した事柄を簡潔・的確にまとめあげる力も養成しておかねばならない。その際、問四がそうであるように〈要約〉の練習が効果的である。

<総括>

出題数	現代文 1 題・古文 1 題・漢文 1 題 (経営学部は現代文1題・古文1題) (海洋政策科学部文系科目重視型は現代文1題)	試験時間 100分 (経営学部は80分) (海洋政策科学部文系科目重視型は60分)
-----	--	---

- ・出典は説話だった。近年は、歴史書、作り物語、説話、日記、軍記、歌物語、説話、歌論と、有名出典という範囲内でジャンルは多岐にわたっており、今年もその流れにある。
- ・本文分量は昨年度に引き続き、神戸大学古文の標準的な1000字前後だった。
- ・設問数は昨年に引き続き5問だった。
- ・本文中に2首の和歌が含まれているが、うち1首が文法問題として問われていた。和歌があっても内容を問わないケースが多い本学の特徴が今回もうかがわれる出題だった。
- ・説明問題の分量の推移の直近6年は以下の通りで、今年も例年並み。
  - 21年度：3問（うち字数制限付きは2問で、50字以内・60字以内。あとは5字程度の抜き出し）
  - 22年度：3問（うち字数制限付きは2問で、50字以内・40字以内）
  - 23年度：2問（すべて字数制限付きで、50字以内・60字以内）
  - 24年度：2問（すべて字数制限付きで、50字以内・80字以内）
  - 25年度：2問（すべて字数制限付きで、50字以内・60字以内）
  - 26年度：2問（すべて字数制限付きで、50字以内・60字以内）
- ・例年通り文学史が客観式で出題された。

<本文分析>

大問番号	二
出典 (作者)	『唐物語』(藤原成範か)
頻出度合 ・的中等	出典は普通
分量 前年比較	分量(減少・やや減少・ <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">変化なし</span> ・やや増加・増加) 約930字 (昨年約950字)
難易 前年比較	難易(易化・やや易化・ <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">変化なし</span> ・やや難化・難化)

## <大問分析>

4 / 6

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
二	説話	問一	記述式	標準	現代語訳の問題 (四箇所)。昨年に引き続き「分かりやすく」という条件が付されていた。 ①「おのづから」の訳出と、「世の中静まりて」の具体化、「な+ん」「ものを」の訳出がポイント。 ②「ありし」「べく」の訳出と、「有様」の具体化がポイント。 ③「うつし心」「けしき」の訳出と、「見とがめて」の主体・客体の補充がポイント。 ④「いかめしき」「いだしたてて」の訳出と、主体・客体の補充がポイント。
		問二	記述式	標準	説明問題。「胸の苦しさ抑へがたくぞおぼえける」について、誰がどのようなことに「胸の苦しさ」を感じたのかを五〇字以内で説明する。直前の記述を踏まえることがポイント。
		問三	記述式	標準	説明問題。「親王の御情け」について、内容とそれに対する作者の評価を、六〇字以内で説明する。解答の末尾をどうするか迷う。
		問四	記述式	やや易	文法問題。「ぬ」を活用させる (三箇所)。通常の文末と、後続の助動詞が「らん」と「し」。
		問五	客観式	標準	文学史の問題。平安時代から鎌倉時代頃の成立ではないものを、五つの選択肢から一つ選ぶ。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## <学習対策>

- ・文法や現代語訳の設問は定番であるので、指示語や接続語などの文脈をとらえつつ、文法や語法に留意した丁寧で正確な訳出を普段から心がけたい。
- ・記述式説明問題は、例年、各問40～80字程度で問われるので、古文学習の際には、その本文の要約を常に練習するように心がけるとよい。普段の訓練が効果を発揮するものである。
- ・文学史について、成立年代、ジャンル、作者など、基本的なものは押さえておきたい。

<総括>

出題数	現代文 1題・古文 1題・漢文 1題 (経営学部は現代文1題・古文1題) (海洋政策科学部文系科目重視型は現代文1題)	試験時間 100分 (経営学部は80分) (海洋政策科学部文系科目重視型は60分)
-----	---	---

清の文人<sup>おうししん</sup>王士禛の随筆『分甘余話』からの出題。故郷へと急ぐ旅人の心情を歌った民間歌謡(楽府<sup>がふ</sup>)をもとに、清の文人が自分の体験を語った話。筆者が故郷へ帰る旅の途中、まだ少ししか進んでいないのにもかかわらず「故郷まであと少しだ」と喜ぶ使用人の言葉に、楽府の歌と同じ望郷の念が表れていると感じたという話で、筆者の心情を読み取るのがやや難しい。設問数は5問、解答箇所は8で昨年度と同じ。語の読みが3問、現代語訳と書き下し文が各1問なのは昨年度と変わらないが、昨年度は2問だった説明問題が3問に増え、そのうち2問に字数制限があった。また昨年度にあった指示内容を答える問題が本年度は問われなかった。書き下し文を問う傍線部は例年どおり白文であった。現代語訳の傍線部は昨年は白文であったが、本年度は返り点と送り仮名が付けられた。

<本文分析>

大問番号	三
出典 (作者)	清 王士禛『分甘余話』
頻出度合 ・的中等	稀
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・ <b>変化なし</b> ・やや増加・増加) (昨年) 132字→(本年) 124字
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・変化なし・ <b>やや難化</b> ・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
三	随筆	問一	記述式	やや易	語の読みの問題。(a)「偶(たまたま)」 ※「偶語」で「ぐうごするを」と読むのが妥当である。
		問二	記述式	標準	(b)「幾何(いくばくも)」、(c)「耳(のみと)」 書き下し文の問題。再読文字「未(いまだ〜ず)」、「有〜者(〜ものあり)」。
		問三	記述式	標準	(一) 現代語訳の問題。再読文字「当(きっと〜しよう)」、「相(たがいこ)」、「賀(祝う)」がポイント。
				やや難	(二) 理由説明の問題。波線部直前の使用人の発言の意味を理解する。
		問四 問五	記述式 記述式	やや難 やや難	理由説明の問題。使用人同士の会話を元にまとめる。 内容説明の問題。使用人の言葉と「楽府」に共通する心情をまとめるが、制限字数内で答えるには工夫が必要である。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

重要語句と句形の知識に習熟し、特に白文を読む力を身につけておくこと。問題文全体の構成を考えながら、文章の展開を正確に読み取る訓練を積んでおく必要がある。さらに説明問題の答案を制限字数内で簡潔に要領よくまとめる訓練もしておくこと。